

HEDNA ASIA DISTRIBUTION CONFERENCE

昨年に続いて今年もバンコクで開催されました。サプライサイドもデマンドサイドもアジアを代表する会社が参加しており、活発な議論が戦わされました。

Topics1

AIトラックではAGODAがプレゼン

今年もAGODAのCTOのプレゼンで始まりました。AGODAは3年間で150年分の時間削減をAIで成し遂げたとのこと。サポート面のAIから進めるとのこと。音声ChatBotのAI化はホテルでも使えそうです。

Topics2

ホテル会社規模によるシステム要求の違い

メガチェーン、中規模チェーン、単独ホテルのシステム要求に関する議論がありました。単独ホテルはヒューマンタッチを残したいということが印象的でした。いずれもOpen-APIで接続しやすく短期間で構築できるものが良いようです。

Topics3

Whole Sale Rateは避けるべきか

ストレートな議論でした。どうしても悪い印象しかないWhole Sale RateについてはダイナミックRateになってからはホテルにとっては基盤となるセグメントになってきているとのこと。まずはダイナミックRateを使いこなすことが重要で、そのためのシステム対応も必要なようです。

Topics4

チャネルの選び方

各ホテル錯綜としているチャネルをどのように選んでいるかの議論がありました。まずはホリウムにごまかされないことが重要で、欲しいセグメントであれば選んだ方が良いとのこと。特にペイメントと絡んだチャネルが急増しており、選択せざるを得ないのが実情のようです。

<CLOUDIT EYE>

今回「教育」の焦点を当てたセッションがいくつかありました。10ヶ月間中に離職が進み、その代わりにGen-Zが入社してきていることはDemand、Supplyいずれも同じ状況のようです。今のGen-Zはしっかりと教育をまず行き、そこから部署へのインターンシップに出していくことが大切のようです。その中でSupplyの方では経験に基づく業務に新たな業務を加えカリキュラムを作成して教育を行うことで、離職率を下げることに結び付けられている例の報告がありました。むしろDemandの方が従来型の育成しかできていないという悩みもあるようでした。



バンコクで2回目の開催でした。バンコク（タイ）はVisaなし入国がしやすい国ようで、MICEには最適ではないかという会話をしていました。流石に2年連続同じバンコクなので来年は変わるかという期待もありますが、タイの入国しやすさを考えるとまたバンコクかもしれません。

来年はEurope Conferenceを9月開催にする関係で、APACは未定とアウンスがありました。結構この時期はOTA関係のイベントもあるため、ずらした方が参加者が集まるかということのようです。

バンコク市内の移動はBTSが便利です。BTSの駅が主要ホテルとショッピングモールで繋がっており、雨に濡れずに移動できます。

<旅行トレンド>

昨年は米国からのアウトバウンドが非常に活性化されて、高単価も主要な都市で記録できていました。しかし、今年に入ってから中国からのアウトバウンドが増えてきているようです。バンコクでは、その傾向がはっきりしており、課題としては単価の下落があるようです。

これはメインとなる中国市場が富裕層から中間層に移ってきているとのこと。富裕層を昨年並みの単価で取り込めているのは5Star級のホテルに限られており、3Star,4Starは単価を昨年度並に維持できていないということでした。

この「中国中間層」というセグメントは景気が悪くなっていると言われている中国ではありますが、主要は中国からのアウトバウンドを支えているセグメントのようなので、日本も同じように3Star-4Starは来るべき単価の下落に備える必要性があるようです。

<デステーション>

1.世界的に「希望する」旅行先

検索されている件数で見ると、アジア地区では昨年比で中国が275%の増となっているようです。一方日本は56%の増、となっているようです。

2.世界的に「予約されている」旅行先

実際の予約となると韓国が58%の増、台湾が37%の増となっています。日本は40%の増とのこと。

これはSafe Destinationという観点で判断されているようで、ものの消費から体験型への変化も見られるとのこと。

この体験型で代理店が提供する組み合わせ商品がメインで「Trip-Orchestration」というようです。

<注目の会社>



会社ではなく、業界団体です。Asia Travel And Technology Industry Associationという団体です。OTAやホテル会社が参加しています。ご存じのとおり、欧州では様々な規定がEUから発信されており、その対応で業界自身も苦慮しているところがあります。アジアではそのような動きはあまり見られないのですが、そういう他地域から発信される規定をどのようにアジアの関連企業に取り込んで行くのか？ということを考える団体です。まだ参加団体も少ないのですが、必要な事に取り組んでいるということで、覚えておきたい団体です。

<次回予告>

今年はITB Asia（10月末）に参加予定です。あちこちのベンダーからWTMの参加を誘われていますが、断念しようと思えます。

本NEWSはバックナンバー含めて弊社ウェブサイト（cloudit.jp）でも公開しております。

<お問い合わせ>

クラウドイット株式会社 info@cloudit.jp 電話:03-6416-3270